

特別活動

1 特別活動の指導計画の作成

特別活動は、生徒の心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の成員としての資質を身に付ける自主的、実践的な態度を育てるとともに、現在及び将来にわたって自己実現を図る能力を養う教育活動であり、その指導計画は学校の教育目標を達成する上で、重要な役割を果たすものである。

このため、指導計画の作成に当たっては、学校の教育活動の全体における特別活動の位置付けを明確にするとともに、各教科・科目及び総合的な学習の時間との関連や特別活動の各内容相互の関連に留意することが大切である。

指導計画作成上の基本的な配慮事項としては、次の点があげられる。

(1) 学校の創意工夫を生かすこと。

特別活動は、学校の創意工夫の余地の広い教育活動であり、各学校の特色を生かした実践が特に求められている。

そのためには、各学校において、学校や地域の特色をはじめ、生徒の実態を的確に踏まえるとともに、過去の活動の評価や反省などを生かし、創意ある指導計画を作成することが大切である。

(2) 学校の実態や生徒の発達段階及び特性等を考慮すること。

特別活動の指導計画の作成に当たっては、学校の実態はもとより、高等学校の生徒という発達段階や特性等を考慮することが大切である。

そのためには、生徒の興味・関心、能力・適性等に関する十分な生徒理解に基づいて、各学校における活動の重点目標、活動の内容、指導の方法などを明確にしておくことが必要である。

(3) 教師の適切な指導の下に生徒の自主的、実践的な活動を助長すること。

特別活動においては、各活動内容の特質に応じて、生徒自身に活動計画を立てさせるなど、できる限り生徒による自主的、実践的な活動が展開されるよう配慮することが大切である。

しかし、その際には、常に教師による適切な指導を行うことが重要である。

(4) ボランティア活動や、就業体験など勤労にかかわる体験的な活動の機会を取り入れること。

生徒が社会貢献や社会参加の意義を正しく理解し、望ましい人間観や職業観・勤労観を身に付けるとともに、将来、社会人として自立した生き方ができるよう学校における体験的な活動の充実が求められている。

そのためには、特別活動において、できる限り社会奉仕体験や就業体験などの体験的な活動の機会を取り入れるよう配慮することが大切である。

(5) 家庭や地域の人々との連携を深め、その教育力を活用すること。

家庭や地域等の幅広い教育力を活用した体験活動を行うことは、生徒の調和のとれた発達や人間としての在り方生き方についての自覚の深化など、特別活動の目標を達成す

る上で、極めて重要である。

そのためには、各学校が開かれた学校づくりを推進し、家庭や地域との連携や交流を深め、それぞれの教育力を生かした指導計画の作成に努めることが大切である。

2 ホームルーム活動（P 124展開例参照）

ホームルーム活動においては、学校や生徒の実態に応じて指導内容の重点化を図るとともに、十分な生徒理解や生徒と教師の信頼関係を基盤に指導を行うことが大切である。

また、指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導・援助の下に、生徒の自発的、自治的な活動が助長されるように配慮することが必要である。

指導上の留意事項としては、次の点があげられる。

- (1) 生徒やホームルームの実態、生徒の当面する諸課題等に対応して、弾力的に指導内容の重点化を図るようにすること。
- (2) 生徒の自発的、自治的な活動の場面、教師が計画的な指導を行う場面のいずれであっても、生徒の自主的、実践的な活動を助長するよう、できる限り生徒が自ら進んで活動しようとする意欲を引き出すように指導・援助すること。
- (3) 望ましい集団や人間関係を築き上げていく生徒の主体的な活動を助長するとともに、生徒一人一人の個性の伸長を図り、自己を生かす能力や態度を高めていくようガイダンスなど指導・援助の在り方を工夫すること。
- (4) 入学から卒業までを見通したホームルーム活動の計画的、継続的な指導に留意すること。また、ホームルーム活動と生徒会活動及び学校行事などとの関連にも留意し、体験的な活動の充実を配慮すること。

3 生徒会活動（P 125展開例参照）

生徒会活動においては、自発的、自治的な活動に必要な場や機会を年間を通じて計画的に確保できるよう工夫するとともに、教師の適切な指導・援助の下で、教育的に価値の高い望ましい集団活動が展開されるよう配慮することが必要である。

指導上の留意事項としては、次の点があげられる。

- (1) 教師の適切な指導の下に、生徒が主体的に考え、判断し、自主的に実践し、さらに活動の結果についても評価をし、生徒会活動全体の充実や改善向上を図ることができるようにすること。このため、生徒会の各組織が活動計画を作成する際には、各ホームルームなどの意見を十分に取り入れるようにすること。
- (2) 生徒会の組織は、学校や生徒の実態に即して適切に定めるようにし、生徒総会や各種の委員会などにおける諸活動が有機的な関連をもって行われるようにするとともに、その健全な運営を図り、個々の生徒のもつ考えや意見を十分に反映しながら、学校生活を楽しく規律正しいものにし、望ましい校風を築く活動となるようにすること。
- (3) 生徒会活動が、一部の生徒の活動にならないようにするため、全生徒が学校やホームルームの生活上の問題に対する課題意識を高め、自主的、自発的に活動に参加し、協力して自分たちの学校生活の充実や改善向上を図ることができるようにすること。
- (4) 活動の計画や内容は、生徒会の会報や生徒会だよりの発行、校内放送や掲示板の活用

などの広報活動を通して、常に全校生徒に周知するとともに、新入生に対して、生徒会活動への理解を深める機会を設けるなど、生徒会活動についての関心や意識を高めるように工夫すること。

- (5) 全校又は学年の集会活動を計画する際には、各ホームルームの意見や希望を尊重するとともに、その実施に当たっては、参加する生徒に集会のねらいを明確に示すようにすること。
- (6) 生徒会の役員会や各種の委員会等における活動目標の設定や活動計画の作成、実施方法の決定などが、生徒の自発的、自治的な活動として適正に行われるよう適切な指導・援助を行うこと。
- (7) 生徒会活動のねらいが達成できるよう、生徒会活動と、ホームルーム活動及び学校行事等との関連を十分に図るようすること。
- (8) 教職員の協力体制を確立するとともに、活動内容に応じて、積極的に家庭や地域との交流が進められるよう適切に指導すること。また、学校外での活動等については、生徒の安全の確保に十分留意すること。

4 学校行事（P 126展開例参照）

学校行事においては、学校や生徒の実態に応じて内容の重点化を図り、各学校の創意工夫を生かした特色ある活動が展開されるよう配慮することが大切である。

また、豊かな人間性や社会性などの育成を図るため、自然体験や社会体験などの体験活動の充実を図る必要がある。

指導上の留意事項としては、次の点があげられる。

- (1) 実施する行事のねらいを明確にし、その意義を理解させ、綿密な計画の下に、積極的、実践的な活動の意欲を育成すること。
- (2) 学校行事においては生徒の健康や安全を考慮し、特に負担過重にならないようすること。
- (3) 教師の指導の下に、生徒の創意をできるだけ生かすとともに、秩序やルールを守り品位のある活動によって校風が高められるようすること。
- (4) 生徒一人一人が集団の中での人間的な触れ合いを深め、個性を発揮して積極的に活動できるよう、活動の場や機会を豊富にすること。また、個々の生徒の特性等を配慮した役割分担にも留意すること。
- (5) 学校行事の計画、準備、実施、その評価などの各過程において、生徒会活動などとの関連を図りつつ、生徒にとって可能な範囲で自主的な活動を行わせ、個々の生徒に積極的な活動を促し、自主的な協力や自律的な態度を養うこと。
- (6) 教師間の連携協力を密にするなど、指導体制の確立を十分図ること。
- (7) 個々の行事の特質に応じて家庭や地域社会との連携を深めながら、学校の特色や創意工夫を生かした行事を工夫すること。

(1) ホームルーム活動展開例

期 日	平成○年○月○日 (○曜日)	場 所	教室
時 間	○校時	対 象	第○学年○組生徒40名
全 体 計 画	1 適性検査 (1時間) 2 活動の説明、グループ分け (1時間) 3 グループ発表 (1時間・本時) 4 グループ発表 (1時間) 5 活動のまとめ (1時間)		
テーマ	将来の職業を考える		
目 標	1 多様な職業や職業生活の実情について理解を深めさせるとともに、自らの職業適性について考えさせる。 2 生徒自らの進路の選択決定と将来設計についての意識の高揚を図る。		
事前の 活 動	<p>【3週間前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームルームを6班に分け、班長6人による「ホームルーム企画委員会」を構成し、担任の指導の下で「職業調べ」の原案づくりを行う。 「ホームルーム企画委員会」の提案に基づき、各グループは10種類程度の性質の異なる職業から、調査・研究を行う職業を選択する。 <p>【2週間前】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループは、進路指導部から提供された資料、インターネットや職場訪問等から得られる情報をもとに、対象の職業の内容や将来性、求められる資格や適性、仕事に従事する上での生きがいや悩み等について調査・研究する。 <p>【1週間前】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループは調査・研究の成果を、発表できる形にまとめる。この際、発表資料を用意するとともに、OHPやプレゼンテーションソフトウェアの活用なども検討する。 		
展 開	<p>(司会は企画委員が行う。)</p> <p>○企画委員による趣旨説明 3分</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画委員が本時のテーマ、趣旨、活動の流れ等について説明を行う。 <p>○調査・研究の発表 30分 (10分×3班)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3グループが調査・研究した職業について発表する。 (資料を配布するとともに、OHPやコンピュータを活用する。) (他のグループは翌週発表を行う。) <p>○各自の考察 10分</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表された職業について、職業適性検査の結果と比較し、自分の職業適性について考える。 <p>○担任によるまとめ 7分</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動の意義や成果についてまとめを行う。 発表のあった職業等について、進路指導部が作成した資料をもとに追加説明するとともに、今後における進路情報の活用の仕方について指導する。 		
事後の 活 動	<ul style="list-style-type: none"> 本時の発表に関する感想や自らの職業適性についての考察の状況などを自己評価票に記入し、活動の成果を確認する。 各グループの調査結果資料を集約し、教室内で回覧する。 調査活動の成果を後日に実施予定のインターンシップ(3日間)に生かす。 		
指導上 の留意 点	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主的、実践的な活動を重視し、生徒の意欲を引き出すよう配慮する。 進路指導部との連携を密にし、必要に応じて、生徒が適切な情報や助言を得られるよう配慮する。 生徒が職業の理解のみにとどまらず、自己の適性を客観的に把握し、職業選択への意欲を高めることができるよう配慮する。 調査、研究の結果を、個別指導としての継続的な進路相談に生かすよう配慮する。 		
評価の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択に必要な情報収集の仕方などを理解できたか。 職業や自らの職業適性について考察を深めることができたか。 自らの進路の選択や将来設計に意欲をもてたか。 主体的に意欲をもって活動に取り組めたか。 各自が自らの役割を遂行し、グループ全員が協力して取り組めたか。 		

(2) 生徒会活動展開例

期 日	平成〇年〇月〇日 (〇曜日)	場 所	町内国道沿道
時 間	5～6校時	対 象	全学年生徒240名
行事名	セイフティーコール作戦 (交通安全啓発活動)		
目 標	生徒会が主体となって交通安全週間に交通安全啓発活動を実施することにより、生徒に自主的、実践的な生活態度を身に付けさせるとともに、社会の一員としての自覚を深めさせる。		
事前の活動	<p>【3ヶ月前】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全啓発活動の企画、立案 (執行部、厚生委員会) 企画、立案内容の検討 (執行部、各種委員会代表者会議) 警察署及び地域等との連絡調整 (学校代表者、執行部、厚生委員会) <p>【2ヶ月前】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施原案についての検討 (代議委員会、各ホームルーム) 交通安全標語の募集 (厚生委員会) <p>【1ヶ月前】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施計画及び交通安全標語の決定 (代議委員会、厚生委員会) 当日の注意事項等の検討 (体育委員会、風紀委員会) 生徒によるマスコット (かえる) の作成 (家庭科) 標語短冊の作成 (各ホームルームで各生徒が1枚作成) (マスコットに標語短冊をリボンで結びつける。) 「生徒会だより」の生徒及び地域への配布による活動目的、内容の周知 (執行部) 「交通安全小旗」及び「交通安全大看板」の作成 (執行部他) 		
展 開	<p>○開会式場 (校庭又は体育館) への移動 (15分)</p> <p>○開会式 (20分) (進行 厚生委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会長挨拶 校長挨拶 警察署、町内会代表挨拶 交通安全決意表明 (代議委員会代表) 注意事項説明 (風紀委員会代表) <p>○活動 (60分) (各学年1日交替)</p> <ul style="list-style-type: none"> 警察官の指導の下で、生徒が沿道に並び、自作した交通安全マスコットをドライバーに配布するとともに、「交通安全小旗」を振り、交通安全を呼びかける。 <p>○学校への移動 (15分)</p>		
事後の活動	<ul style="list-style-type: none"> 翌日、各ホームルームにおいて、自己評価を含めたアンケートを実施するとともに、活動で得られた成果や実施上の課題について討議する。 各ホームルームでの討議結果を参考に各種委員会においても反省を行う。 警察署及び町内会等への礼状を送付する。(学校代表者、執行部、厚生委員会) 		
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 活動の企画、立案が、生徒会の各組織間の連携により、生徒の自主的、実践的な活動として行われるよう配慮する。 活動内容に、各ホームルームの意見や希望が十分に反映されるよう配慮する。 活動の目的を明確化するとともに、活動の結果について適切に評価がなされるよう配慮する。 活動の円滑な実施のため、教師の指導の下に警察署や地域等との連携が適切に行われるよう配慮する。 学校外の活動における、生徒の安全が十分確保されるよう配慮する。 		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員としての自覚や意欲が深められたか。 自主的・実践的な態度を身に付けることができたか。 生徒会の一員としての自覚に基づき、自らの役割を十分に果たせたか。 交通安全に対する態度を育成することができたか。 生徒会組織が十分に生かされた活動となったか。 		

(3) 学校行事展開例

期 日	平成〇年〇月〇日 (〇曜日)	場 所	学校及び学校外 (町内各施設他)
時 間	2～3校時	対 象	第3学年 生徒120名
行事名	地域ふれあい活動 (ボランティア活動)		
目 標	生徒自らが選択するボランティア活動の実践を通して、相互の協力や助け合いの態度を培うとともに、社会貢献や社会参加の意義を正しく理解し、望ましい人間観や勤労観・職業観を養い、地域の一員としての自覚を培う。		
事前の活動	<p>【3ヶ月前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務部の指導のもとに、各ホームルームから選出された「活動実行委員」が活動内容の企画、立案を行うとともに留意点について検討を行う。 ・保育所、老人ホーム、役場、社会福祉協議会等の地域の施設や関係機関等での活動内容を検討する。 <p>【2ヶ月前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動実行委員会の案をホームルームで検討し、決定する。 ・活動施設及び関係機関等との連絡調整を行う。 ・第1次選択希望調査を実施する。 <p>【1ヶ月前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームでボランティア活動の意義について事前学習を行う。 ・第2次選択希望調査を行う。(6つの活動から一つを選択) ・各活動におけるの参加人員を決定する。 ・講演会を実施し、生徒の参加意識を高める。 <p>「ボランティアの概念とその活動・かかわり方」(外部講師)</p>		
展 開	<p>○活動</p> <p>【校外】(各活動場所にはグループごとに徒歩で移動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーン作戦(町内のゴミ拾い、バス停の清掃、ゴミステーション周辺の整備等) 30名 ・保育所訪問(2カ所)(園児との交流、施設の清掃等) 20名 ・老人ホーム訪問(高齢者との交流、介護補助等) 20名 ・募金活動(社会福祉活動への募金) 15名 <p>【校内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清拭縫い(老人ホーム用清拭を縫製し、後日、生徒が施設に持参) 15名 ・手話体験(外部講師による基本講座) 20名 		
事後の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒にアンケートを実施し、個々の生徒の取組について評価させるとともに、感想や意見を集約して、活動の成果と課題をまとめる。 ・地域の施設及び関係機関等への礼状を送付する。(学校代表者、活動実行委員会) 		
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の意義や目的についての理解が十分になされるよう配慮する。 ・活動計画においては、生徒の創意を生かすよう配慮する。 ・活動においては、生徒が自主的に参加し、自律的に行動できるよう配慮する。 ・地域の施設及び関係機関等との連絡調整を密にし、活動が円滑に行われるよう配慮する。 ・自他の安全確保や施設設備の保全に十分注意が払われるよう配慮する。 		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労や社会奉仕の意義や尊さについて理解できたか。 ・社会についての理解が深まり、社会貢献や社会参加について理解できたか。 ・交流により、自己理解や他者理解を深め、豊かな気持ちをもてたか。 ・自主的・自律的に活動に参加することができたか。 ・他の生徒と相互に協力して活動に取り組むことができたか。 ・地域の一員としての自覚は深まったか。 		